

「土砂災害への備え」

茨城県 水戸市立浜田小学校 6年 関根 凧

土砂災害は毎年、各地で起こっています。そして、たくさんの方が被害にあっています。そんな土砂災害の被害を防ぐには、1人ひとりが土砂災害から身を守るように、日ごろから備えておくことが大事だと思います。

身を守る方法は4つあります。1つ目は、自分の住んでいる地域が土砂災害の危険性が高いか確認することです。私は、「ハザードマップ」で調べました。私の家の近くは危険性がなかったけれど、住んでいる地域の中に危険性がある場所が何か所もありました。危険性が高いか確認することで、土砂災害に備えていこうと思いました。土砂災害から身を守るにはまず、自分の住んでいる地域が危険性が高いかを確認することが大事です。

2つ目は、災害情報を確認することです。土砂災害は大雨になったときに、起こりやすいので大雨になったときに、災害情報を確認することが大事です。情報を得る方法としては、テレビ、ラジオ、けいたいなどがあります。もし、停電になったときはテレビは使えません。なので、停電のときはけいたいとラジオしか使えません。私が使っているけいたいは、災害の危険性が高まったときなどに、災害警報が届くのですが、私はいつもけいたいをじゅう電していないのでいつも使えるかどうか分かりません。ラジオも、使い方が分からないので使えません。なので、もしものときのために、けいたいはいつもじゅう電するように心がけたいと思います。ラジオも、使い方が分からないと、もしものときに状況が分からないので、使い方を確かめて、災害のときに、使えるようにしたいです。

3つ目は、早めにひなんすることです。家で備えていても、ひなんをするときに、ひなんの備えをしていないと、被害が大きくなってしまいます。なので、被害を小さくするために、ひなんへの備えをしておくことが大事です。ひなんへの備えは、ひなん場所、ひなん経路の確認と防災袋の見直しをすることです。ひなんするときに、ひなん場所や、ひなん経路が分からないと、ひなんがおくれてしまいます。そして、がけや、川など危険性がひなん経路の中にあるか、確認することも大事です。もし、経路の中に土砂災害の危険性が高い場所があると、ひなんしているときに、土砂がくずれたり、川が氾濫して、土砂がくずれて道がふさがれたり、土砂にまきこまれてしまったりする可能性があるため、危険性のない道でひなんすることはとても大事です。防災袋も、ひなんができて、食糧や水など、ひなん後の生活に必要なものを入れておかないと、生活が苦しくなってしまうので必要なものを入れておくことが大事です。それは、救急セットやかいちゅう電灯、ラジオなどです。そんな防災袋は、備えておくことが、とても大事です。防災袋は災害後の生活を支えてくれます。なので私も、防災袋を備えようと思いました。

4つ目は、近所の人達と協力し、助け合うということです。もし、近所の人達の中で、1人ではひなんができない人がいるかもしれません。なので、お互いに助け合ってひなんするのが、被害を小さくできる方法だと思います。しかし、災害のときだけに、近所の人と協力して、助け合う、ということになると、上手くいかないと思うので、日ごろから、コミュニケーションをとることが大事です。あいさつや、地域の行事でコミュニケーションをとって、近所の人と協力して助け合えるようにしていきたいです。そして、私達が土砂災害から身を守るには、1人ひとりが備え、近所の人達と協力して助け合うということです。なので私は、土砂災害の知識を、日ごろから持って生活していきたいです。